

森の中から地球の未来を育む

愛媛大学農学部附属演習林 講師 小林 修

「森には美もあり、愛もある。はげしい闘いもある。だが、ウソがない。」東京大学富良野演習林の林長を永年勤め、自ら地を這って森を見つめつづけ、日本でも有数の美しい森づくりを実践してきた、どろ亀さんこと高橋延清先生の詩「森の世界」からの一節です。数あるどろ亀さんの詩は、C. W. ニコルさんにより英訳されています。ニコルさんはどろ亀さんの詩をこう評しています、「先生の詩は単純明快、だがただおもしろいだけではない、真実を突いていた。」

どろ亀さんの言葉にあるように、森には様々な生命が無駄なく実に絶妙なバランスを保ちながら存在しています。その存在は、人に木材や食料といった生活の糧を供給し、水源を涵養しながら我々の生活圏を災害から守ってしてくれます。人は紛れもなく森に生かされているのです。しかし、我々が作り出した一見便利で経済的に豊かな生活は我々自身を森という自然から遠く離れた空間へと閉じこめてしまっています。

私は、このような現代生活が、世の中の様々なゆがみの一因になっていると強く感じています。特に、最近の子どもたちをめぐるさまざまなこころ痛む事件もこのことが背景にあるように思えてならないのです。

文部科学省の調査では、子どもたちの生活体験や自然体験に接する機会が過去に比べて少なくなっていることを浮き彫りにしています。その一方で、生活体験や自然体験が子どもたちの正義感や道徳観を育むのに効果があることを示しました。私は森が子どもの目を輝かせ、自然に近づけていくことを知っています。森が育てた子どもたちはやがて、未来に親になります。森の中で子どもを育む活動は、地球の未来を育てていることに他なりません。みなさんも機会を見つけて、森に出かけて希望を見つけてください。森の中で舞台を開催するのも名案ではないでしょうか。大学の森で皆さんをお待ちしています。

小林 修氏

プロフィール

今後の持続可能な社会づくりのためには、森林が必要不可欠であるとの考えに立ちユニバーサルな森林体験活動を通して、森林が果たす役割について学びながら森の力を借りてこころを育成する体験活動のあり方について研究している。